



秋立ちて、幾日もあらねば、この寝る、
朝明(あさけ)の風は、手本(たもと)寒しも

(9月の万葉集)

万葉集 巻8-1555 安貴王(あきのおほきみ)

(秋になって何日もたっていないのに、この寝ての朝の風は手元に寒く感じられます。)

「みて、まねて、ぬすんで」を受け継ぐ!

9月も半ばが過ぎ、朝夕は少しは涼しく感じられる頃となりました。しかし、日中はまだまだ暑く、運動会や体育大会に向けて練習をしている子どもたちが、熱中症にならないかと心配しています。

ところで、6歳で歌舞伎の初舞台を踏み、92歳でなくなった歌舞伎役者の市川右太衛門さんは、生前に「自分が歌舞伎の修業時代、師匠から芸を手にとって教えてもらうことはできなかった。見て覚える、まねるということの連続だった。芸がなくてはやっぱり伸びない。一つの芸を身に付けるにはよい芸を見てぬすまなきゃいかん。」そして、「芸を高めようとする欲が大事である」と言っておられます。

このことは、子どもたちの学校・園生活にも相通ずる気がします。子どもたちの諸活動の中で、上級生(年長)が下級生(年中・年少)によい芸(範)を示し、その所作や取り組み方である「みて、まねて、ぬすんで」を受け継ぎながら、伝統や校(園)風が築かれていると思うからです。



本町の子どもたちは、広陵町という歴史と伝統を積み重ねてきた素晴らしい環境と優しく温かい人々が暮らす元気な町で育っています。そのような中、それぞれの学校・園の伝統を教え

てもらおう先生方とともに上級生が受け継ぎ、下級生に伝えています。

10月のはじめには、各学校・園で体育大会や運動会が開かれます。

そこには、これまでに築き上げられた伝統を受け継ぐ取組とともに、新たな取組が展開されると思います。そして、子どもたち一人一人の力と集団の力が一つに結集した、「見て楽しい、やって楽しい、感動を呼ぶ体育大会・運動会」が実施されるはずで。まずは、「スポーツの秋」を実感させてくれることを期待するとともに、最高学年である中3や小6、年長児がリーダーシップを発揮して、下級生が「みる」「まねる」「ぬすむ」を身に付けて素晴らしい体育大会や運動会にしてほしいものです。

兄弟(姉妹)でも性格が違う!

ときどきお母さんたちの会話の中から「どうして兄弟なのにこんなに性格が違うのかなあ?」という言葉がよく聞かれます。また、「二人を足して2で割ったらちょうどいいのに」という話も聞かれます。

確かに同じ両親から生まれ、同じ家庭環境で生活しているのであれば、違うのはおかしいような気がします。しかし、全く同じ環境で生活してきたわけではありません。初めてのお子様



の時は両親にとっても初体験なわけですから、子育てのいろいろな情報を入手して、不安を持ちながらも育てていたわけで、2人目のお子様の際は、すでに子育ての経験があり「この程度なら大丈夫」という自信?のもとに子育てを行っています。そのため、子どもが増えるたびに親としての子育てについての自信が増してくるわけです。そして、子どもにとっても年齢の差によって家族の中でのポジションがきまり、要求される行動様式も異なってきます。また、無意識の中に両親としては、それぞれに違う期待をかけて育ててきています。

たとえば、最初の子供には、「早く自立してほしい」「たくましく育てほしい」と無意識のうちに考えているらしいのです。だからこそ、「同じ兄弟(姉妹)」「同じ育て方」といっても、微妙に違いがあり、長い間には性格が異なってくるのは当然のことだと思います。

ある資料に長子と次子についての性格調査の分析結果がありました。その中から特徴的な性格の違いを紹介します。あくまでも統計上のことを示していますのでご了承ください。また、両親の対応の仕方や家族構成の違いなどで、さらに子どもの特徴は異なってくるものです。

- 長子……自制的、慎重、控えめ、面倒なことを嫌う
自分の用事を平気で押しつける
- 次子……快活、活動的、おしゃべり、甘ったれ、強情、やきもち焼き、勝ち気で社交的

成長する環境の違いで、上のような性格の差が出てくるようです。

「上の子は……」「下の子は……」と兄弟(姉妹)を比較するのは無駄なことなのです。それぞれ異なった人格をもった一人の人間として見守ることが大切だと思います。

教育委員会の取組

教育講演会を開催しました！

2学期が始まったの2日目、8月27日(火)の午後2時から、町内の小中学校、幼稚園・こども園の教員、民生児童委員の皆さんを対象にした今年度の教育講演会を広陵中央公民館かぐや姫ホールで開催しました。

今回の講師には、元奈良市立若草中学校校長の森井弘先生にお願いしました。森井先生は私にとって30年来の先輩で、当時、生徒指導の大先輩として、生徒指導主事としてのあるべき姿や身体を張っての心構え、そして何よりも子どもの命を守ることを第一に考えて、子どものために情熱をもって動くことを教わりました。また、県教育委員会でも直接の上司として、厳しい中にも愛情溢れる温かな指導をしていただいたことを覚えています。そのような先生に、

「教師として大切にすべきことは・・・」～出会ってきた

子どもたちが教えてくれたこと～と題して、聴いている人すべての心に響く熱い熱い想いをパワーポイントで示しながら語っていただきました。



森井先生自身が教師として、校長として出会っ

た多くの子どもたちとの関わりの中で経験したエピソードを中心に、3つの大切に続けてきたことを話していただきました。一番大切なことは、親御さんからお預かりしているかけがえのない「子どもの命を守る」こと、2つめは「子どもを幸せにする」こと、そして、3つめは「子どもの心を育てる」ことを常に心がけ、子どもたちに関わる中で様々なことを教えられ、一人の教師として大きく成長してきたということをお話されました。特に、冒頭に資料として配られた涙を誘う「ディズニーランドでの話」から自ら経験した「教え子を亡くした話」「修学旅行での話」を通して、「子どもの命を守る」ことの大切さ。また教師が子どもたちと関わる中で、「先生と出会えてよかった」「先生のおかげで私は変わった」「先生に教わってわかる喜びできる喜びが味わえた」と子どもが言ってくれる。そんな教師を目指してほしい。そして教師自身が経験した話、感動した話は子どもの心に届き響くので先生方も子どものために様々な経験をすることが大切だとも話されました。

来賓で来ていただいた町長様はじめ、講演を聴いている人すべてが、森井先生の熱い語りに魅了されるとともに心を洗われたような、子どものためにがんばろうという前向きな気持ちになった講演会でした。

トイレの改修工事を進めています！

夏休み後半より、広陵西小学校と広陵北小学校において、子どもたちにとって、衛生的で使いやすいトイレ（洋式化、乾式化の洗浄機付き）の改修工事を進めています。まずは仮設トイレを設置するとともに、子どもたちの学習に支障がないように極力、配慮しながら工事を進めています。工事の手順は3階より2階、1階と天井、壁、床の改修とトイレの設置を行う予定で、何とか年内には終えたいという思いです。



来年度は、真美ヶ丘第二小学校と真美ヶ丘中学校を、再来年度には広陵東小学校と広陵中学校と順次改修工事を進めていきますので、ご理解ご協力をお願いします。

西小学校の仮設トイレ

今月の一言

『できる事でもできぬと思えばできぬ。できぬと見えてもできると信ずるが

ためにできる事がある』

三宅 雪嶺



明治・大正・昭和時代に活躍した哲学者、評論家である三宅雪嶺の名言です。思考は現実化するといいます。

できないと思い込んでいることにアクションを起こす人間はいないと思います。たとえそれが事実ではなく、解釈だとしても、自らの可能性を狭めてしまっているのです。

どんなに苦しいときでも必ず達成できるという気持ちを持ち続けることが大事です。

学校・園から



10月に開催される学校・園の体育大会・運動会の予定

10月2日(水)	広陵中学校	8:50～
雨天3日(木)	真美ヶ丘中学校	8:50～
10月5日(土)	広陵東小学校	8:45～
雨天6日(日)	広陵西小学校	8:50～
	広陵北小学校	8:40～
	真美ヶ丘第二小学校	8:45～
10月12日(土)	広陵東小附属幼稚園	9:00～
雨天14日(月)	広陵西幼稚園	9:00～
	広陵西第二幼稚園	9:00～
	真美ヶ丘第一小附属幼稚園	9:00～
	真美ヶ丘第二小附属幼稚園	9:00～
	広陵北かぐやこども園	9:00～